

みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.121号 2021年10月27日発行



あずまやと物置の修理

◎東の庭にある東屋（四阿）の屋根を葺き替えました。（10角形なのに、四阿とは？）私がグリーンボランティアに入った時にはすでにあつたので、20年ぐらい前の建物だと思います。10角形なので、手間が一般的な屋根の四倍ぐらいかかり、男性陣も人数が少なくなった中、5人で頑張りました。

屋根部材はレッドシダー（米杉）の赤白（源平）材を使用していたため、白太（しらた）部分が腐り、下地のルーフィングが露出していた状態でした。そのため、今回は長持ちするように、部材も国産材の杉（秋田杉）の赤味を使用したので、20年ぐらいは持ってくれると思います。

◎10月6日現在、西の庭にある物置の屋根が雨漏りをしているとのことで、透湿防水シート（タイベックシート）を敷き、その上にハイブリッド桧というコンパネを貼り、さらにルーフィングをかけ、最上部にアスファルトシングルという部材を貼っています。

この小屋も20年ぐらい前の建物なので、木の葉の影響で苔がはえて、かなりいたんでいました。今年秋は雨も多く、作業が中断したりして、3～4週間もかかっています。今回は病院の予算のこともあり、ボランティアの男性陣で作業しましたが、今後は、早めのメンテナンスがよいと思います。 [坂本]

屋上庭園から

3階屋上ガーデンには現在、大小30近くの鉢植えがあります。それぞれ、屋上という過酷な環境に耐え、季節により多くの花を咲かせてくれています。世話をする側としてはそれほど大きな苦労があるわけではありませんが、思わぬ毛虫の大量発生に皆で大騒ぎしたり、真夏は水やりが追いつかず枯らせてしまいそうになったこともあり、小さな事件は絶えません。

週一回でも、植物が元気に育っている様子を見ながら作業するのは楽しいですが、何より患者さんや看護師さんから直接声をかけて頂けることは大きな励みです。日々の変化を楽しみにし



てくださっている方、お花を欲しいと言ってこられる方、そして名前を教えると
と言われる方も多いです。名前が分かれば後で手に入れられるからと、名札を
付けてとおっしゃいます。屋上ガーデンでは今後その要望にお答えすることに
しました。

これからもこの場所が、ここを訪れる方のささやかな癒しの場であり続けら
れることを願っています。 [中村]

コラム No.16

中村土川さんを偲んで

9月22日の夜、『みどりのゆび』担当の一人から「8月末に中村土川（とせん）
さんが亡くなったそうです」との知らせが入りました。まさか…との思い
で、ネットで調べたところ、遺作展が翌23日まで伊那で開かれていることを
知り、急遽、グリーンボランティアのメンバー4人で訪れることになりました。

土川さんはがん治療で定期的に来院されていましたが、この病院の庭を愛し、
『みどりのゆび』116号、117号には庭への想いを寄稿してくださいました。
来院のたびに、庭を散策され、ハーブの香りを楽しむ、穏やかで優しい眼差し
が印象的な方でした。

会場で真っ先に目に飛び込んできたのは大きな3枚の絵。『即身成仏
三部作』。墨を基調に、燃え上がる魂
のうごめきを感じさせられます。こ
れらの作品は10年の構想を経て、5
分で完成させたものだと土川さんの
奥様に伺いました。そもそも地元伊那で初の作品展を開く予定でしたが、遺作
展となってしまったのだそうです。



20年前に伊那の山奥にアトリエを構え、ひたすら絵を描き続けた土川さん。
物静かな面差しの陰に、創作者の溢れるような情熱を抱え、求道者のように絵
の道を歩み続けたのだと納得しました。会場には死の直前まで書き続けたとい
う2冊の詞画集の草稿が置かれ、その1冊に「がん細胞は友だち…」との言葉
を目にし、ご自身の病をも森羅万象の一部として受け入れ、祈りのような、悟
りのような境地に達せられたのだらうかと思ったことでした。

きっと今も『ハーブ園の天使』を空の彼方から見つめてくださっているで
しょう。ご冥福を心からお祈りいたします。 [牧野]

★★★★★お知らせ★★★★★

- 11月 3日(水) 9:00～ クリスマスリース作り
祝日ですが、ご協力お願いします
- 11月 10日(水) 10:00～ 秋のバザー
- 12月 1日(水) 10:00～12:00 懇談会—今年度を振り返って—
3階の講堂にて行います